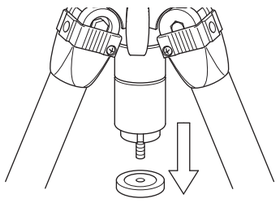
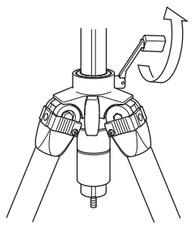
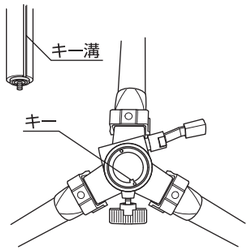
エレベーターの交換



付属のローポジション雲台受と交換することで
より低い位置での撮影が可能になります。
1. 下部座金をゆるめて外します。
2. エレベーターカバーパイプをゆるめます。

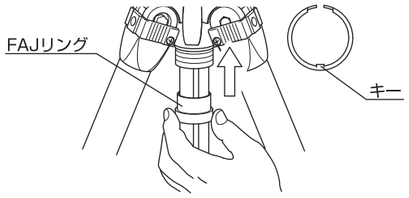


3. クランクハンドルを操作してエレベーターを上
に抜き取ります。
4. ローポジション雲台受の下部座金を外します。



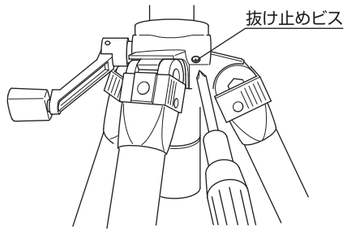
5. 本体部の中のキーとエレベーターのキー溝の方
向を一致させます。
6. クランクを軽く回し、歯のかみ合いを確かめて
から下まで降ろして行き、下部座金をセットし
ます。

FAJリングの取り付け



もし、交換時にFAJリングが外れたら次のように組み込んでください。
1. エレベーターカバーパイプを左に回し下に抜き取ってください。
2. FAJリングのキーとエレベーターのキー溝を一致させて本体の中へ厚みの
薄い方からさしこみます。
3. エレベーターカバーパイプをもと通りにねじ込みます。

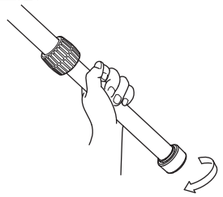
クランクハンドル位置合わせ



エレベーター交換後のクランクハンドルの収納位置を修正する時は、抜け止め
ビスをゆるめてクランクハンドルを引き抜いて再度セットしてください。
クランクハンドルが抜け落ちないようにビスをしっかりと締め込んでください。

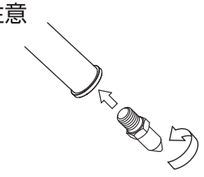
石突の交換

⚠ 注意



ゴム石突を取り外して、スパイク石突
と交換する事が出来ます。
脚パイプをしっかりと握り、ゴム石突
をゆるめてはずします。
この時、最下段の脚パイプ以外を
持って行うと、脚パイプが破損する
恐れがあります。

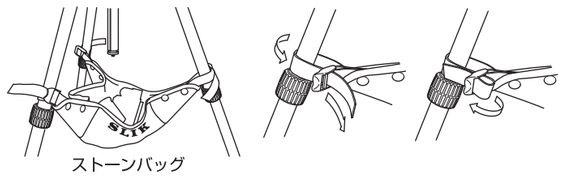
⚠ 注意



最初に付属のスパイク石突きを止まる
まで指でねじ込みます。
最後に付属のスパナで止まるまでねじ
込んでください。
注意：
最下段の脚パイプ以外を持って行うと、
脚パイプが破損する恐れがあります。
付属以外のスパナを使用すると
脚パイプが破損する恐れがあります。

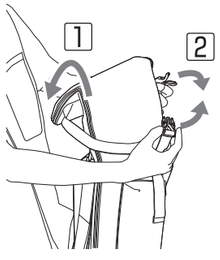
付属品

⚠ 注意

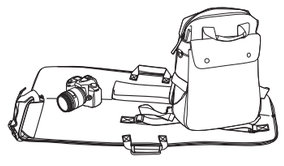


アクセサリーなどを入れて、三脚全体を重くし安定性を高めます。
図のようにベルトを通して取り付けてください。
脚ロックナット部に引っかけて、下へのずり落ちを防いでください。
物を入れる前にバッグの固定を確認してください。
エレベーターの急な落下により、内容物にあたることがありますのでご注意
ください。

三脚ケース



三脚をケースに収納して、
1．余った部分は折りたたみ
2．ベルトで固定します。



三脚ケースのファスナーを完全に開く
とフラットになり簡易シートとしても
使えます。

禁止

- 三脚や雲台各部へのオイル・グリス等の
補充は絶対にしないでください。
破損、故障の原因となります。
可動部の動きが悪くなってきた場合は、
お買い求めの販売店または
アフターサービスへご依頼ください。
- 火に近づけないようにしてください。
夏など高温になる車内などに長時間放置
しないでください。

お手入れ

- よごれたときには、中性洗剤を
やわらかな布につけてふいてください。
その後、きれいな乾いた布でふいて
ください。

本製品の補修用性能部品は製造中止後
5年を目安に保有しております。したがって
本期間中は修理をお受けいたします。
インターネット・ホームページ
http://www.slik.co.jp/

＊改良のため、お断りなくデザイン、仕様を
変更することがありますのでご了承ください。

©2022 SLIK CORPORATION

SLIK® カーボンマスター
933, 934

取扱説明書

このたびは、スリック製品をお買い求めいただきまことにありがとう
ございます。
ご使用前にこの説明書をよくお読みいただき正しく、十分に性能を生かして
お使いください。
お読みになったあとは必ず保管し、わからないときには再読してください。
脚のみをお買い上げの方は三脚部の説明を中心にお読みください。

⚠ 注意 このマークは取扱いを誤った場合、人が傷害を
負ったり物的損害の発生が想定される内容です。

禁止 このマークは禁止（してはいけないこと）内容です。
説明にしたがい事故のないようお使いください。

V326-2

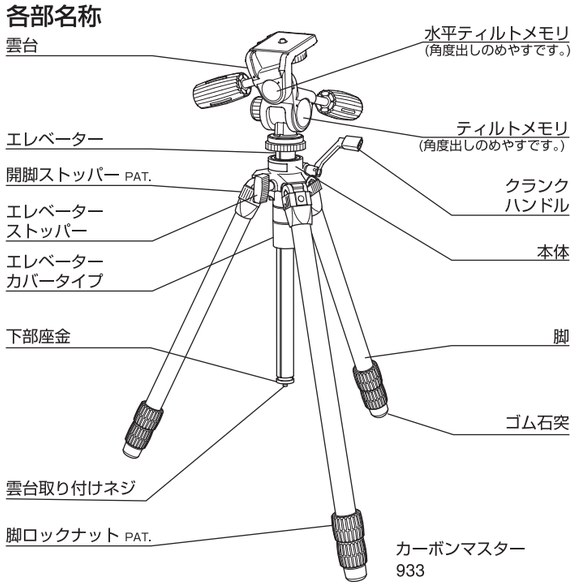
仕様

カーボンマスター	933	933 WOH
縮長	830 mm	708 mm
全高	2,045 mm	1,900 mm
EVスライド	310 mm	310 mm
質量	3,300 g	2,300 g

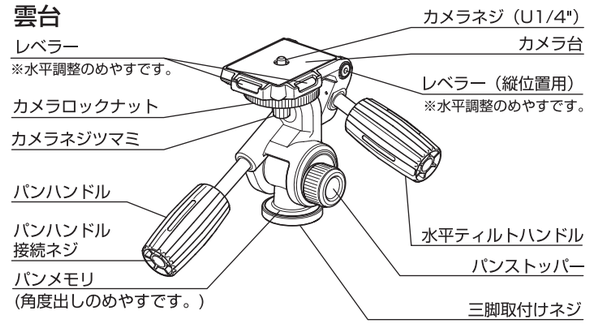
カーボンマスター	934	934 WOH
縮長	680 mm	554 mm
全高	1,935 mm	1,790 mm
EVスライド	310 mm	310 mm
質量	3,270 g	2,270 g

三脚ケース付
ストーンバッグ付

各部名称



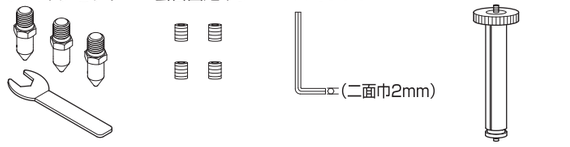
雲台

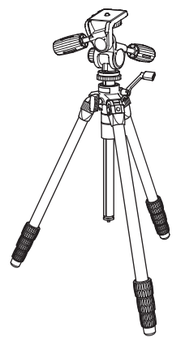


禁止
パンハンドルだけを持って、三脚を持ち上げないでください。

※三脚用のレベラーは水平調整のめやすです。
カメラ内蔵のレベラーとは精度が異なります。

付属品





カーボンマスター
934

搭載する機材

禁止

最大搭載質量
カーボンマスター 933 ：7kg
カーボンマスター 933 脚 ：7kg
カーボンマスター 934 ：7kg
カーボンマスター 934 脚 ：7kg

これ以上の機材は載せないでください。
また、上記搭載質量以下のものでも
あっても重心位置によりバランスの
取りにくいものもあります。
そのようなときは、上のクラスの
三脚をお使いください。

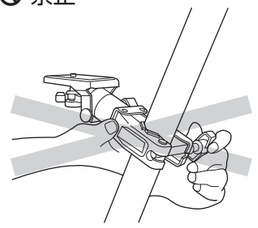
衝撃のあったとき

⚠ 注意

三脚が転倒するなど衝撃が加わった
場合は、パイプにひび割れが入って
いないか確認ください。
傷、割れ等が見つかった場合はただち
に使用を中止し修理を依頼してください。
カーボン繊維が出ている場合はケガ
をするおそれがあります。
直接ふれないようご注意ください。

クランプヘッド

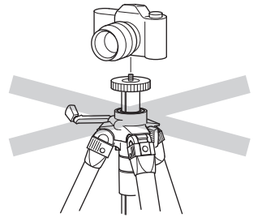
禁止



別売のクランプヘッドはカーボン三脚
に使用しないでください。
パイプが破損し危険です。

雲台取付けネジ

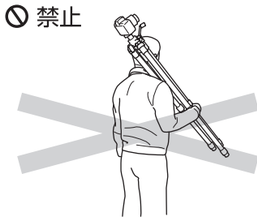
禁止



カメラを直接エレベーターに取り付け
ることは故障の原因になります。
雲台などを介してお取り付けください。

持ち運びのとき

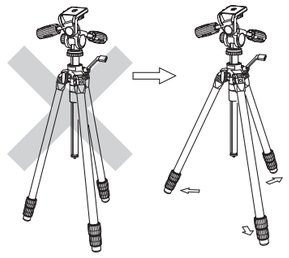
禁止



カメラは三脚から外して持ち運んで
ください。
カメラの落下、使用者や周囲の人へ
のケガ、物損等を起こす可能性があ
ります。

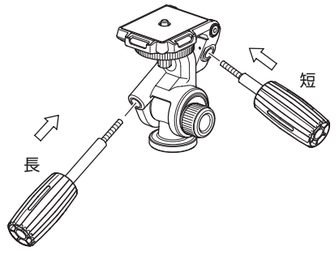
機材の取り付けとセットアップ

⚠注意



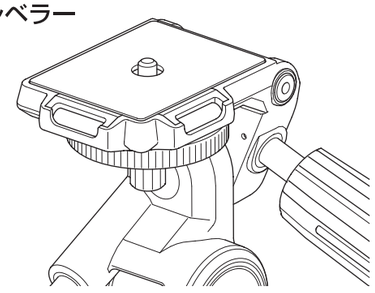
カメラの取り付け、ハンドル、ツマミ、レバー類のロックは確実に行って、落下や転倒を防いでください。
また、3本の脚を十分に開いてください。脚の開きが不十分だと不安定でカメラブレや転倒の原因になります。

パンハンドルの取り付け



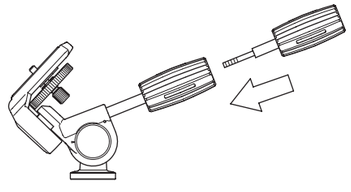
雲台に2本のハンドルを取り付けます。
パンハンドル(長)を左、水平ティルトハンドル(短)を右に取り付けてください。

雲台部 レベラー



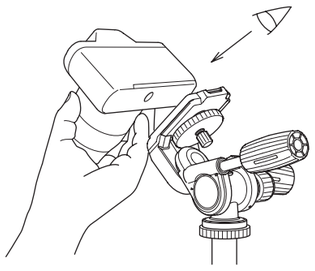
カメラ台のレベラーを使用すると、水平出しのめやすとすることができます。

収納

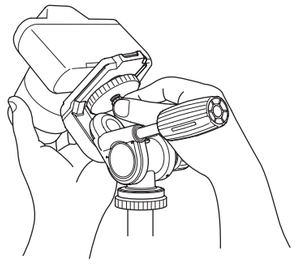


水平ティルトハンドルをはずし、パンハンドル後部のパンハンドル接続ネジにねじ込んでください。
コンパクトに収納できます。

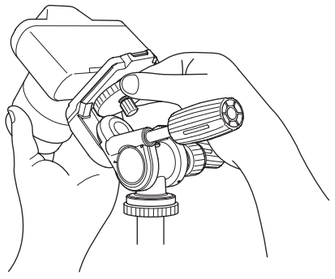
カメラの取り付け



ハンドルを操作して、図示の様にカメラ台の手元をあげると、ネジ部が見えて取り付けやすくなります。

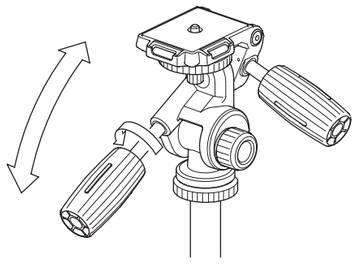


カメラをしっかり支えながら下側のカメラネジツマミでカメラネジを、ねじ込みます。

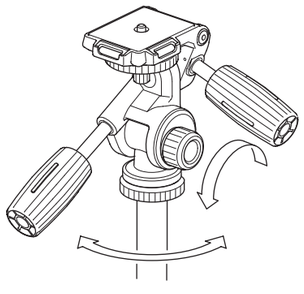


次に上側のカメラロックナットで、しっかりと締め込みます。

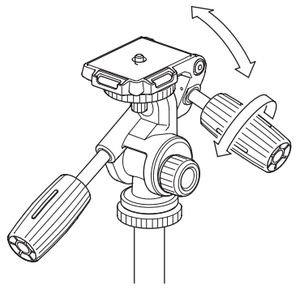
雲台の使い方



パンハンドルをゆるめると、前後にティルトできます。

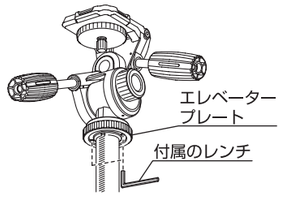


パンストッパーをゆるめると、水平に回転できます。



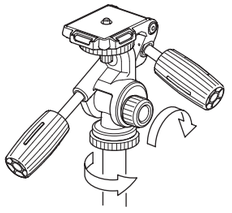
水平ティルトハンドルをゆるめると、水平調節ができます。

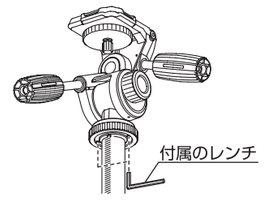
雲台固定ネジ



フィールドスコープや望遠レンズなど重い機材をのせて使用する際は、雲台と三脚がゆるまないように、付属の雲台固定ネジを使用してください。
エレベータープレートの裏側から雲台固定ネジを入れ（2ケ所）、付属のレンチで締め付けます。

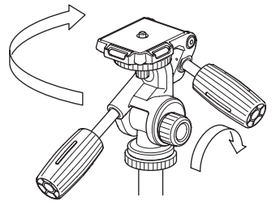
雲台の取り外し





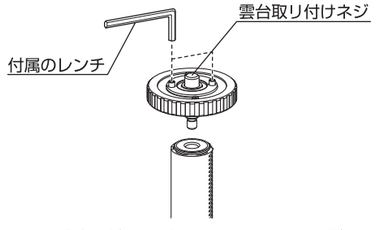
始めに、脚部のエレベーターを10mm程度上げて、エレベーターストッパーでしっかりと固定します。次に雲台のパンストッパーをしっかりと締め込みます。このとき雲台固定ネジ2本を使用している場合は、必ず付属の六角レンチで緩めてください。（出荷時、ネジはエレベータープレートについていません）
パンハンドルと水平ティルトハンドルを握って力強く反時計まわりに雲台をまわします。これで雲台がゆるみます。

雲台の取り付け



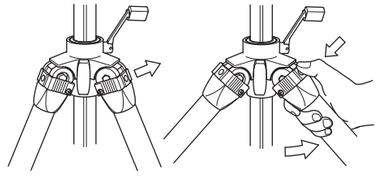
雲台(アクセサリー)と三脚のネジを合わせます。
雲台を時計まわりに止まるまでまわします。
パンストッパーをきつく締めて、さらに時計まわりにねじこみます。
パンストッパーをゆるめると通常にパンニングできます。

三脚部 雲台取り付けネジを小ネジにする



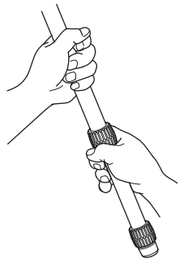
U1/4"の小ネジにしたいときはエレベータープレートを外して取り付けネジを反転してください。
エレベータープレート上部の止めネジ（2ケ所）を付属のレンチでゆるめるとエレベータープレートは外せるようになります。

開脚角を変える



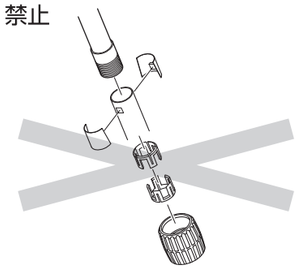
標準の開き位置から脚を少し閉じるようにして、開脚ストッパーを引き出すと残り二つの開脚角度（ミドル、ローのポジション）がえらべます。
使用角度が決まったらストッパーをつきあてにあたるように確実にもどしてください。

脚の伸縮

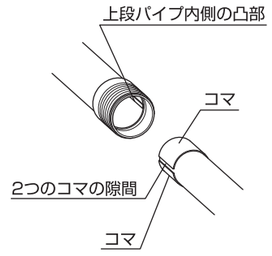


脚ロックナットをゆるめると、脚は伸縮します。
位置がきまったら、しっかりと脚ロックナットを締めつけてください。

禁止

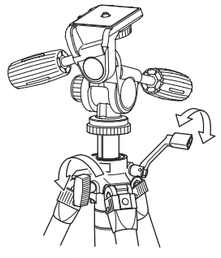


ナットを外して分解することは事故の原因になるので、なるべく行なわないでください。外したときは図のように正しく組みこんでください。

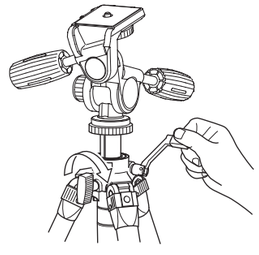


パイプを差し込むときは、2つのコマの隙間とパイプの内側の凸部を合わせてください。

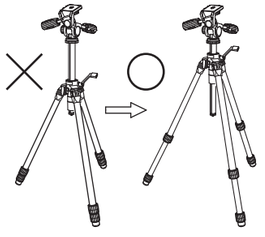
エレベーターの操作



エレベーターストッパーをゆるめてクランクハンドルを操作するとエレベーターは上下します。

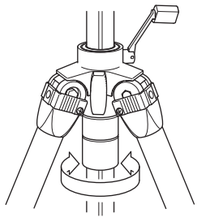


クランクハンドルから手を離す前にストッパーを締めてください。エレベーターの不用意な落下をふせげます。



エレベーターはなるべく高さ調節用として2/3くらいまでの高さでお使いください。一杯に伸すとゆれが出やすくなります。

エレベーターカバーパイプ



エレベーターカバーパイプの締め具合で、エレベーターの上下かたさが調節できます。